

令和6年中における安全運転管理者選任事業所の交通事故発生状況（千葉県内）

本資料は、安全運転管理者選任事業所、又は運転代行業（以下「安管事業所」といいます。）の従業員が千葉県内において業務中又は通勤中の運転により起こした人身事故を分析したものです。

注1：物件事故（人の死傷を伴わない事故）の数値は含まれていません。

注2：安管事業所の従業員が起こした事故であっても、買物やレジャーなどプライベートな業務中の事故の数値は含まれていません。

注3：他県の安管事業所の従業員が千葉県内で起こした事故の数値が含まれていますが、本県の安管事業所の従業員が他県で起こした事故の数値は含まれていません。

注4 本文と各グラフの構成率（%）は表記以外の数値を四捨五入しているため、各構成率の和が100%にならない場合があります。

1 安全運転管理者等選任事業所の交通死亡事故の概要（千葉県内）

| 番号 | 発生日時 | 場 所 | 路線名 | 第1当事者 | 第2当事者 | 通行目的 |
|----|--------------------|---------------|------------|---------------------------|--------------------|------|
| 1 | 1月4日（木） 21:37 | 富津市 小久保 | 国道 465号 | サービス業20代（女） 軽乗 | 80歳代（男） 歩行者【死亡】 | 通勤 |
| 2 | 2月7日（水） 9:11 | 習志野市 実籾 | 市道 | サービス業60歳代（男） 準中貨【死亡】 | 単独死亡事故 | 業務 |
| 3 | 3月22日（金） 4:00 | 松戸市 幸谷 | 市道 | 運輸・郵便業30歳代（男） 原付二種【死亡】 | 50歳代（男） 準中貨 | 通勤 |
| 4 | 5月9日（木） 23:36 | 茂原市 小林 | 市道 | 公務員60歳代（女） 普乗 | 80歳代（男） 歩行者【死亡】 | 通勤 |
| 5 | 5月14日（火） 20:29 | 大網白里市 北今泉 | 市道 | サービス業30歳代（男） 軽貨 | 50歳代（男） 歩行者【死亡】 | 通勤 |
| 6 | 6月12日（水） 9:53 | 鎌ヶ谷市 軽井沢 | 市道 | サービス業60歳代（女） 普乗 | 50歳代（男） 自二【死亡】 | 業務 |
| 7 | 6月13日（木） 17:51 | 柏市 正連寺 | 市道 | 公務員30歳代（男） 普乗【死亡】 | 50歳代（男） 普乗 | 通勤 |
| 8 | 7月16日（火） 19:42 | 旭市 口 | 県道 | 医療・福祉業70歳代（男） 軽乗【死亡】 | 単独死亡事故 | 通勤 |
| 9 | 9月4日（水） 15:52 | 千葉市中央区 問屋町 | 国道 357号 | 卸売・小売業20歳代（男） 準中貨 | 70歳代（女） 自転車【死亡】 | 業務 |
| 10 | 10月29日（火） 12:05 | 流山市 思井 | 市道 | サービス業60歳代（男） 軽乗 | 40歳代（男） 自二【死亡】 | 業務 |
| 11 | 11月4日（月） 17:37 | 長生郡一宮町 東浪見 | 国道 128号 | サービス業60歳代（男） 中乗 | 70歳代（女） 歩行者【死亡】 | 業務 |
| 12 | 11月22日（金） 17:31 | 東金市 北之幸谷 | 県道 | 医療・福祉業30歳代（女） 軽乗【死亡】 | 40歳代（男） 普乗 | 通勤 |
| 13 | 12月15日（日） 21:21 | 市川市 大町 | 国道 464号 | 卸売・小売業50歳代（男） 普貨 | 80歳代（女） 歩行者【死亡】 | 業務 |
| 14 | 12月31日（火） 17:30 | 香取市 高萩 | 県道 | 卸売・小売業30歳代（女） 普乗 | 80歳代（女） 歩行者【死亡】 | 通勤 |

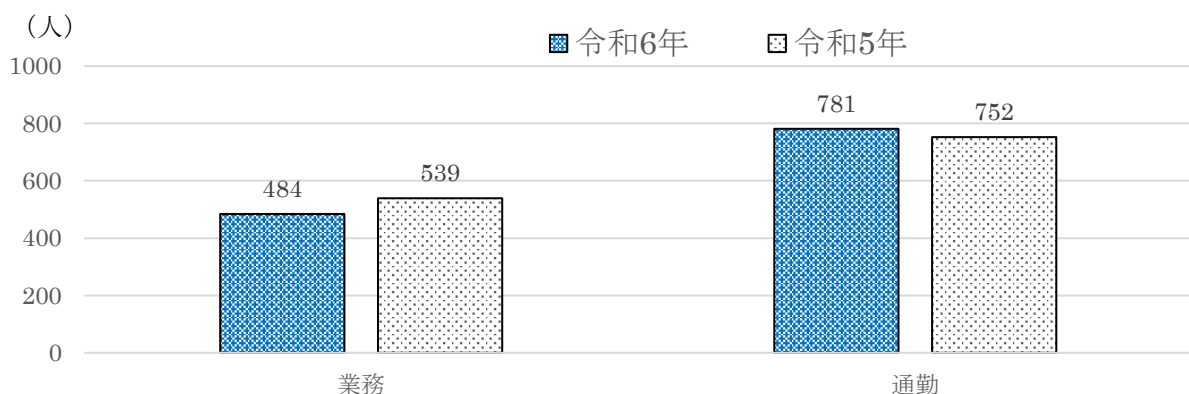
- 令和6年中の死亡事故は14件です。令和5年中に比べ発生件数は1件、死者数も1人減少しています。
- 死亡事故14件中9件が夜間に発生しており、内7件が通勤中でした。
- 第1当事者が自らの過失で死亡している事故が5件です。
- 死者14人中8人が高齢者で、うち5人が歩行者でした。令和5年中と同様に高齢の歩行者が犠牲になる比率が高くなっています。

2 安全運転管理者等選任事業所の交通事故発生状況（千葉県内）

| | | 累 計 | | | |
|------|---------|-------|-------|-----|-------|
| | | 令和6年 | 令和5年 | 増減数 | 増減率 |
| 発生件数 | | 1,265 | 1,291 | -26 | -2.0 |
| 昼 | 日の出1時間後 | 67 | 46 | 21 | 45.7 |
| | その他昼 | 776 | 823 | -47 | -5.7 |
| | 日の入1時間前 | 69 | 94 | -25 | -26.6 |
| | 昼計 | 912 | 963 | -51 | -5.3 |
| 夜 | 日の入1時間後 | 101 | 93 | 8 | 8.6 |
| | その他夜 | 228 | 203 | 25 | 12.3 |
| | 日の出1時間前 | 24 | 32 | -8 | -25.0 |
| | 夜計 | 353 | 328 | 25 | 7.6 |
| 死者数 | | 14 | 15 | -1 | -6.7 |
| 負傷者数 | | 1,476 | 1,541 | -65 | -4.2 |
| 重傷者数 | | 160 | 143 | 17 | 11.9 |
| 軽傷者数 | | 1,316 | 1,398 | -82 | -5.9 |

令和6年中における安管選任事業所従業員に係る交通事故は、令和5年中に比べ発生件数が26件、死者数が1人、負傷者数が65人減少していますが、重傷者数は17人（+11.9%）増加しています。

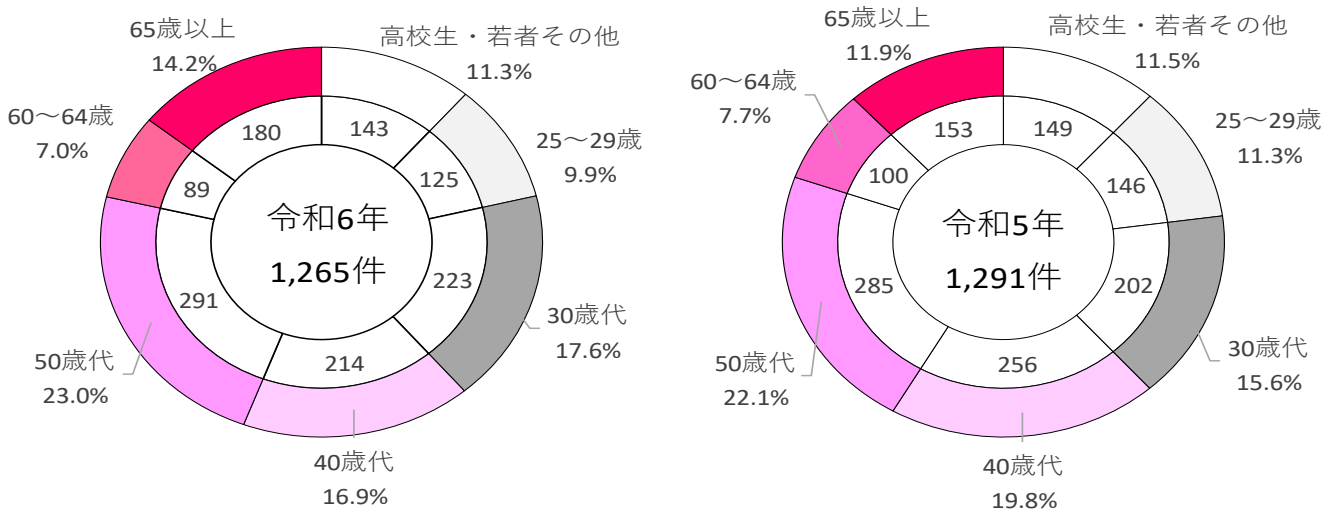
3 第1当事者の運行目的別発生状況



運行目的別では業務中より通勤中の事故の方が多くなっています。マイカー通勤中の交通事故であっても、民法上の「使用者責任」により、雇用主等が賠償責任を負うことがあります。通勤中の安全運転管理にも取り組んでください。

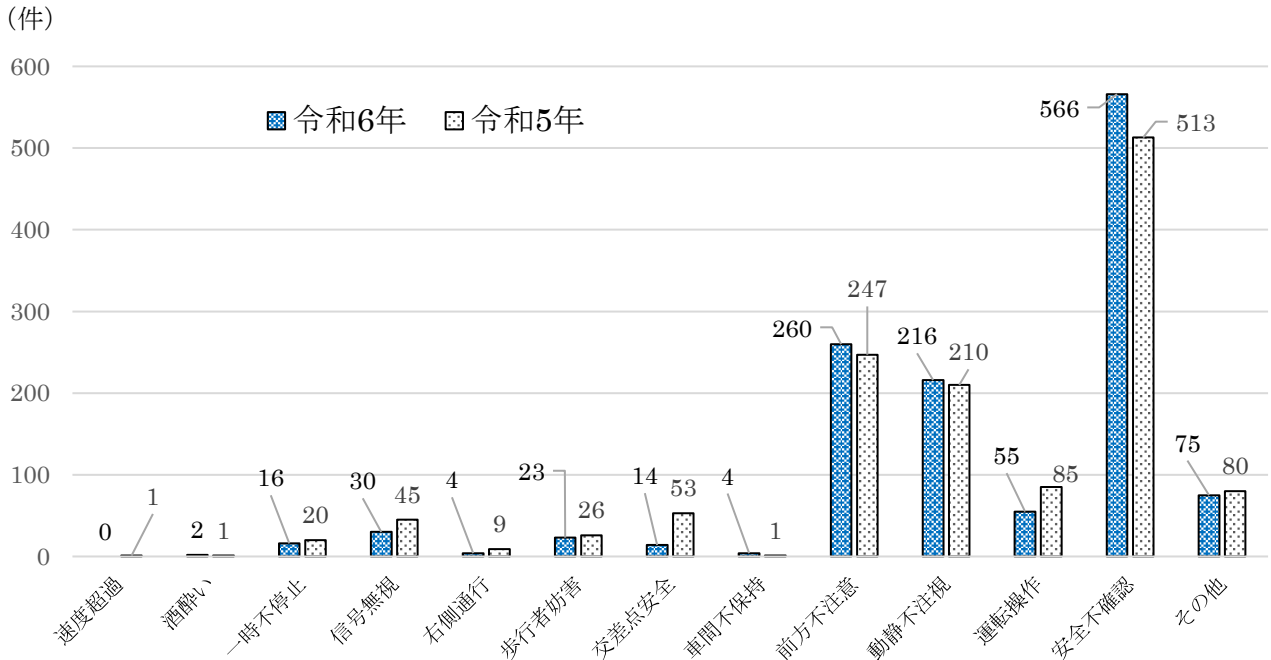
4 第1当事者の年齢層別発生状況

※ 各グラフの構成率については、表記外の数字を四捨五入しているため、各構成率の和が100%にならない場合があります。



事故の総数が26件減少している中で65歳以上の高齢者が令和5年中と比べ27人増加しています。高齢化社会の進展に伴い、事業所の高齢ドライバーも増加していく傾向にありますので、高齢者の特性を踏まえた事故防止対策を推進してください。

5 第1当事者の違反・原因別発生状況



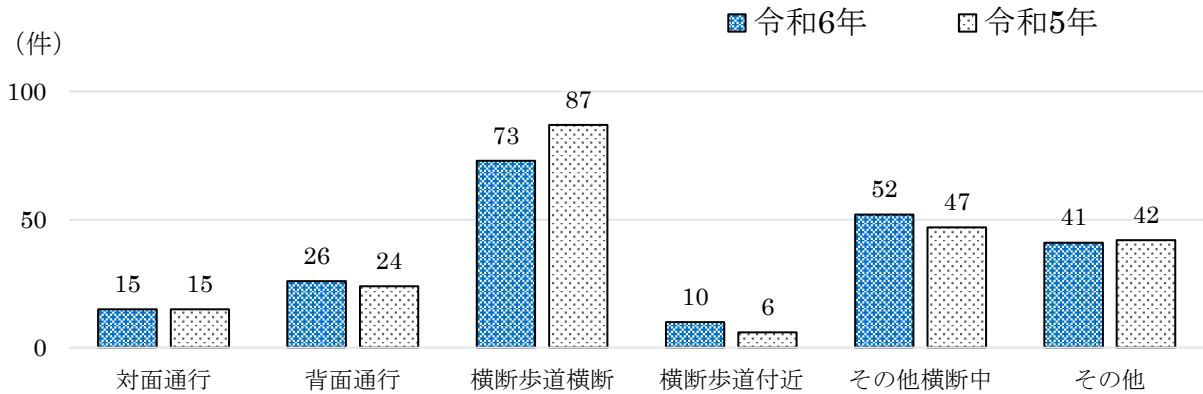
事故原因は、前方不注意、動静不注視、運転操作不適、安全不確認などの安全運転義務違反が計1,097件で事故原因の86.7%を占めています。

また、酒酔い運転による事故が2件発生しています。運転前後のアルコールチェックを確実にを行い、飲酒運転の根絶を図ってください。

注1：酒気帯び運転は事故原因として計上されていません。また、運行目的が買い物やレジャーなどプライベートな場合は計上されていません。

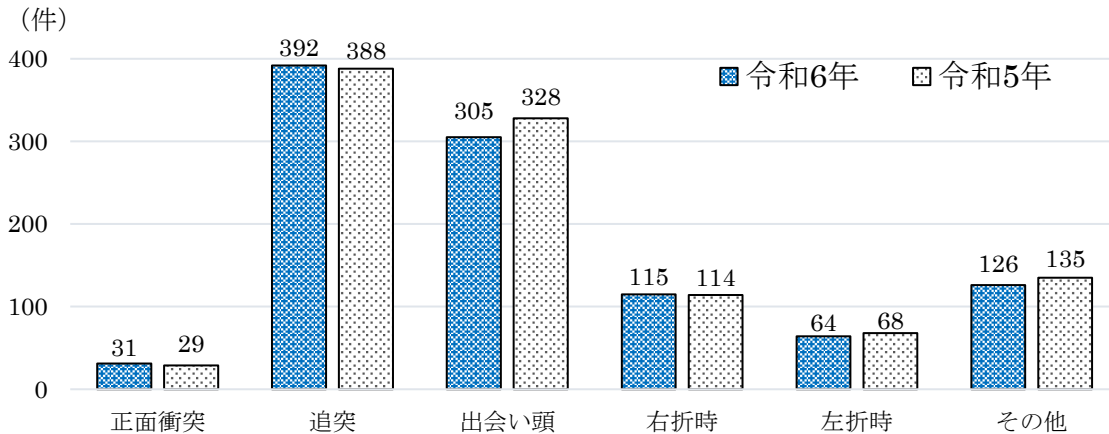
6 事故類型別発生状況

(1) 人対車両 (計 217 件)



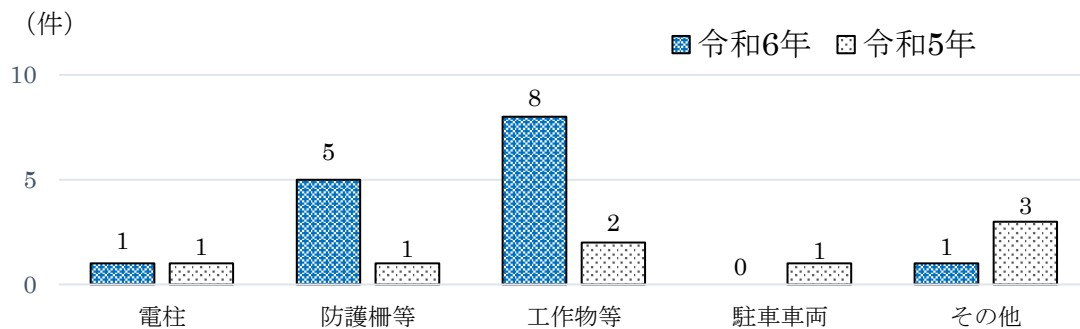
横断歩道横断中の歩行者は最も保護されるべき交通パートナーですが、人対車両事故 217 件中、横断歩道横断中の事故が 73 件 (全事故の 33.6%) と最も多くなっています。右折または左折して横断歩道を通る際に歩行者の発見が遅れて接触する事故が多いので、交差点を右折又は左折する際は歩行者の有無に注意するよう指導してください。

(2) 車両相互 (計 1,033 件)



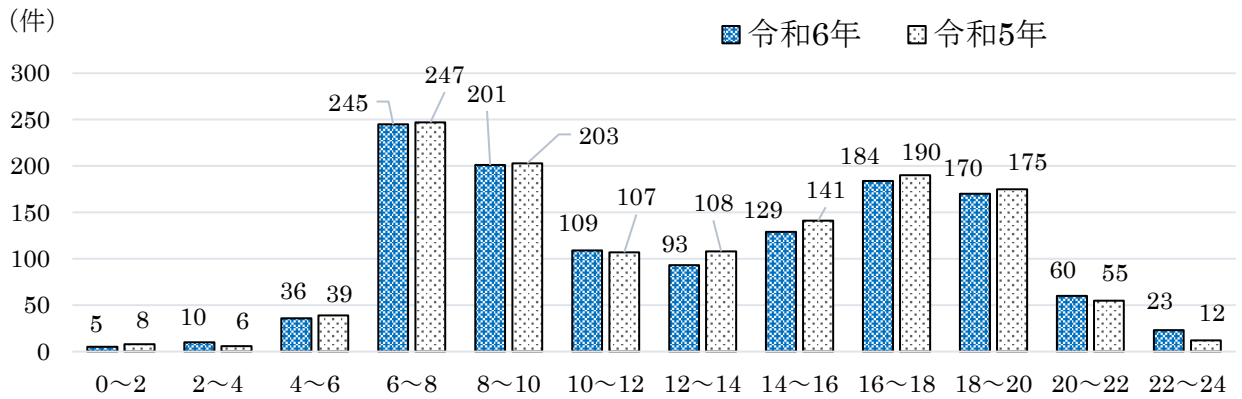
最も多い事故形態は追突 (392 件、全事故の 37.9%、前年比+4 件) でした。次に多かったのは出会い頭 (305 件、同 29.5%、同-23 件) です。出会い頭事故は追突事故に比べ重傷事故になりやすいので、信号機のない交差点では徐行または一時停止と安全確認を確実に実施してください。

(3) 車両単独 (15 件)



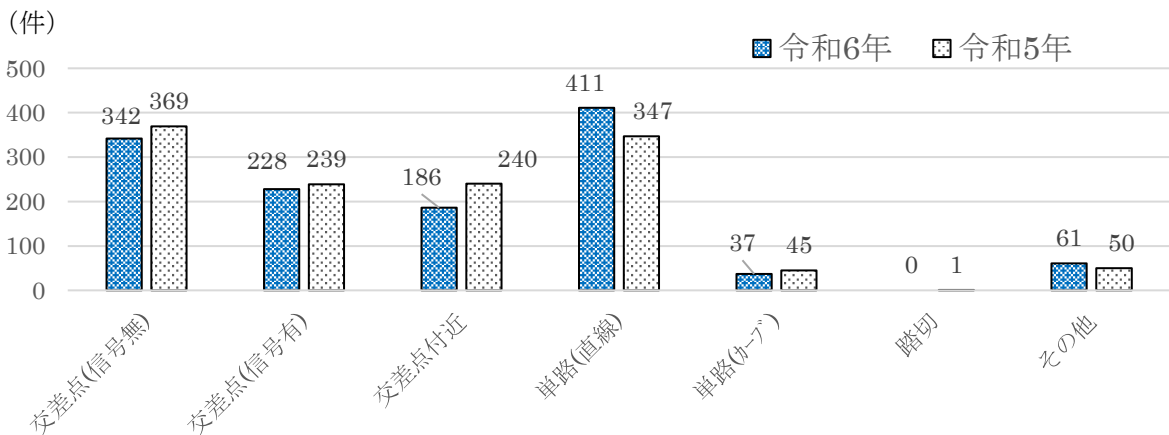
単独事故は 15 件 (前年比+7 件) で、ほぼ倍増しています。うち 2 件が死亡事故です。

7 時間帯別発生状況



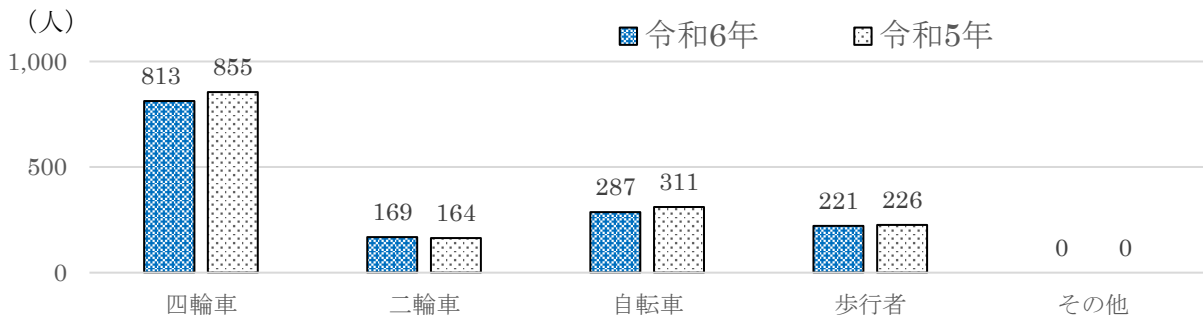
時間帯別で最も多かったのは、6時から8時までの時間帯で245件（全事故の19.4%、前年比-2件）でした。また、6時から10時までの時間帯に446件（同35.3%）、16時から20時までの時間帯に354件（同28.0%）の事故が発生しており、朝夕の通勤時間帯の事故が多くなっています。

8 道路形状別発生状況



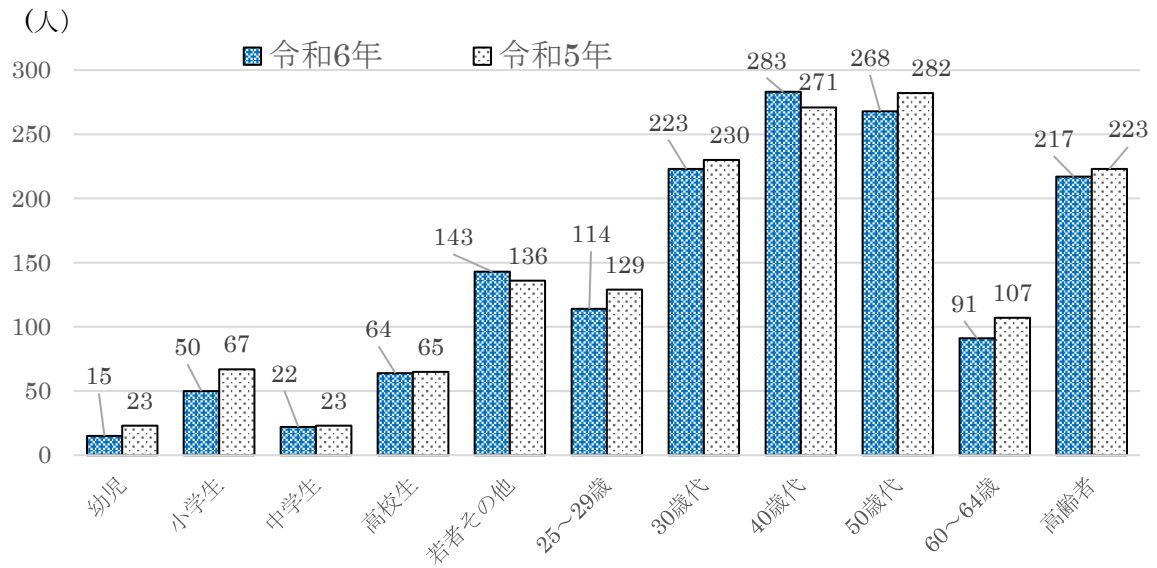
道路形状別では、単路（直線）が411件と令和5年と比べ64件増加しています。信号なしと信号ありの交差点事故の合計は570件で、45.1%を占めています。

9 死傷者の状態別発生状況



四輪車乗車中が最も多く813人（全事故の54.6%、前年比-42人）、次いで自転車の287人（同19.3%、同-24人）でした。歩行者の死傷者数は221人（同14.8%、同-5人）ですが、死者は6人で、歩行者の死傷者は36.8人に1人が亡くなっています。歩行者以外の死傷者は158.6人に1人が亡くなっていますので、対歩行者事故は死亡事故に発展する可能性が高くなっています。

10 死傷者の年齢層別発生状況



死傷者が最も多いのは40歳代の283人（全事故の19.0%、前年比+12人）でした。